

こんなアホ、おるねん！

40年も医者をしていると、いろんな患者や家族に出くわす。人格高潔な人もいれば、品の無い連中の相手もしなければならない。困るのは、理解力の悪い患者・家族である。結果を説明すると、自分で作ったストーリーに単語だけをあてはめようとするから、まったく話の辻褄が合わず、説明するのを諦めてしまったこともある。自分の勘違いで、わずか1000円で、「出るとこ出よか！」と言ったバカ。聞けばなんとかいう会社の社長夫人だという。どんな会社や！うちのスタッフのミスだと言いたいらしいが、そんなもん、間違いようが無い。「どこでも出て行ったらええやないか。恥かくのんはアンタやさかい。」人格高潔ならず、ただの下品で薄汚い大阪のおばちゃんやっただけの話。こんなん、しょっちゅうや。

もっともひどいのは、オレの実力を測りにきたのがいて、こいつなんやねん！医学知識のみならず、一般知識まで調べに来よった。市立病院にいた医師の名前が毛受と書く。ああ、メンジュかいな。メンジュはもうおれへんで、とさりげなく言う。アテがはずれたか、次々と奇妙な質問をくりかえしよる。こいつアホか、と思いながらも、すべての質問に即座に答える。(・・・開業医とはこんなものか、という感じ。)まったくヤツが予期しない早さで即答を繰り返すから、テキは切り札をだしてきた。じつはわたしには、ポスナー・シュロスマン症候群がある。このときの発作のための薬を置いておいてくれますか？という。ポスナー・S症候群は眼科の病気だから、内科では知らない人も多い。しかもその発作時の薬の名前もオレにいわせようとする。・・・これは気違いだ！・・・そんなもん、何年に1回あるかないかわからないようなときのための薬など置いておく必要がないし、その場所もない。発作が起こればここに来ずに市立病院に行けばいい。断る！云々。結局、あてが外れた顔をして帰りよった。無論、二度と来ないし、来てくれなくてもいい。最初の2～3分で、こいつはオレを試しに来ているとわかっていたから、あしらって返したようなもの。俺の知識量は、一般知識でも医学知識でも、お前が考えてきたのよりも100倍はあります。

さすがに最近では試しに来るような者はいないが、時々、からかいにくるのもいる。先日もジジイがおちよくるから、即座に「建前はネ！」アテがはずれて「二度とここには来ない」と受付で捨て台詞とともに帰ったらしいから、来てくれなくてもいい。俺は、理解力の悪いヤツが嫌いやねん！

以下の話は、実話である。こんなバカがまだいるのか！？

20歳前後のみるからに知的な容貌から程遠い顔の女の子が来た。喉が痛くて熱もある。解熱鎮痛剤などを処方してすんだと思っていたら、翌日再び来院した。「昨日の今日やろ」熱はさがっている。すると、「まだ喉が痛いから、紹介状を書いてください」嘘でも誇張で

もない。このとおりに言った。一瞬、なにを言っているのかわからなかった。しばらく話を聞くが、「まだ喉が・・・」としかいわない。オレの一番嫌いなパターンや。紹介状など書かない！ 気に入らなきゃ勝手に何処へでも行け。しばらくしたら治る、とも言った。ほんま、つまみだしてやろうか、と思った。しかもボーッとした顔をしている。こいつはほんまのアホや。・・・・・・・・こんなにも選挙権があるねんで。その方が怖いわ。常識のある者なら、まずは、「熱は下がったのでありがとうございます。ただ、まだ痛いのでなんとかありませんか？」だろうが。

ゴルゴ 13 にある。南アの高官が、ゴルゴに依頼しようとするが、あまりにも態度が悪いし、約束事も守らない。世界の情勢も読めない。いろいろやりとりがあったあと、ゴルゴ 13 がいう。「もういい。お前にはオレの依頼者になる資格が無い！」上手い！